

9月18日

テーマ：「<sup>さんじょう</sup>山上の<sup>へんぼう</sup>変貌」

聖書箇所：マルコの福音書9章1節～18節

◆今日のみことば

そのとき雲がわき起こってその人々をおおい、雲の中から、『これは、わたしの愛する子である。彼の言うことを聞きなさい』という声<sup>こえ</sup>がした。」

マルコの福音書9章7節

◆メッセージ

イエスさまはある日、山で3人の弟子たちに、素晴らしい経験<sup>けいけん</sup>をお与えになります。

山に上ると、イエスさまの顔は輝き、その衣までもまぶしいほど真っ白になりました。イエスさまは神の御子としての、天国での栄光を弟子たちに見せたのです。さらに、そこに旧約時代の律法の代表モーセさんと預言者の代表エリヤさんが現れて、イエスさまがエルサレムでとげようとして



おられる最期について話を

しました(ルカの福音書9章31節)。イエスさまの十字架と復活によって、旧約聖書の律法と預言が実現するということです。そして、栄光の雲がわきあがって彼らをつつみ、父なる神さまの声がしました。「これは、わたしの愛する子。彼の言うことを聞きなさい。」



後におじいさんになったペテロさんは手紙の中で、この

出来事をふり返って(第二ペテロ1章3～18節)、「神のご性質にあずかる者となる」希望をもって、信仰と愛をもって生きるようにと勧めています。ペテロさんは年を取って、イエスさまとの再会が近くにつれ、はっきりとあの日のことを思い出し、思い出すたび信仰と愛をもって生きたいと願うのです。あの山でペテロさんは少しでも長く栄光の主とともにいることを願いましたが、かないませんでした。でも、主が再び来られる日には永遠に栄光の主とともにすごすことができるのです。ペテロさんは主のみもとで「主よ。私たちがここにいることは素晴らしいことです!」と叫び続けるでしょう。

主が再び来られる日が近づいています。栄光の主キリストとともに永遠をすごす者としてふさわしく、<sup>そな</sup>備えができていますでしょうか。

◆お祈り

「天のおとうさま。きょうイエスさまがもどって来られたら、喜んでおむかえできるように、信仰と愛をもって生活できるように、わたしを助けてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン」

(苫小牧福音教会牧師 水草修治)